

令和4年度 学校評価結果及び保護者アンケート結果

1 集約結果

(1) 対 象 : ①本校保護者(家庭数) 145名 ②本校職員 101名 ③本校職員対象 令和4年12月16日(金)～22日(木)				職員自己評価			保護者結果		
(2) 期 間 : ①本校保護者対象 令和4年12月16日(金)～21日(水) ②本校職員対象 令和4年12月16日(金)～22日(木)				3年度 令和4年度			3年度 令和4年度		
(3) 調査方法: ①本校保護者 評価項目を抽出したワークシート方式による回答。 ②本校職員 office365 Formsのアンケート機能による電子入力回答。 いずれも、“できている(3)” “ほぼできている(4)” “あまりできていない(2)” “できていない(1)”の四件法により実施した。				107 101			113 133		
(4) 評価基準: “できている(4)”と“ほぼできている(3)”の占める割合が80%以上はA 80%未満60%以上はB 60%未満はC とした。				100% 100%			68% 92%		
領域	評価項目	NO	実践目標(及び成果)	評価	評価	A+B割合	評価	評価	A+B割合
Ⅰ 学校経営	ア 家庭と地域との連携	1	保護者や地域住民が参画しやすい学校行事やPTA行事となるよう工夫する。	A	A	84.2%			
		2	家庭や地域の意見や要望を反映するなど、連携・協力して取り組む。(教職員) 学校行事やPTA行事に、家庭や地域と連携・協力して取り組む。(保護者)。	A	A	92.1%	B	B	70.7%
		3	学校ホームページや学校ブログを活用して、家庭や地域に最新情報を発信する。	A	A	94.1%	B	B	69.9%
	イ 知肢併置校としての整備推進	4	知肢併置校としての教育内容や教育環境についての協議や研修を行う。	B	B	68.3%			
		5	県・市教委、友生支援学校やあじさい学園などの諸学校と連携し課題に取り組む。	B	C	54.5%			
	ウ 進路指導体制の充実	6	卒業後の自立と社会参加をめざし、関係機関と連携して進路指導を行う。	A	A	93.1%	B	A	83.5%
		7	将来像を見据え、教員や保護者の進路意識を高める研修会を行う。	A	A	89.1%	B	B	78.2%
	エ 実践的指導力と専門性の向上	8	教育愛と使命感を持ち、特別支援教育の専門性を高める研修を行う。	A	A	82.2%			
		9	一人一人の目標と手立てを踏まえた指導案を作成し、授業力を向上させる。	A	B	73.3%			
	オ 危機管理体制の充実	10	障害の重度・重複化、多様化に対応して安全点検を行い、学習環境の改善を図る。	B	B	74.3%			
		11	危機管理マニュアルを活用し、状況に応じた行動ができるよう避難学習を実施する。	A	A	84.2%	B	A	88.7%
		個人情報の保護	12	児童生徒の個人情報(名前や写真など)を適切に管理している。	A	A	97.0%		
○職員自己評価において、昨年度から評価が下がった項目について ・イ-5 県・市教育委員会や関係諸学校との連携・情報共有できる場の在り方や体制づくりを検討する必要があると考える。 ○職員自己評価と保護者の結果に差異がある項目について ・ア-2 家庭や地域との連携に関する項目について、保護者との信頼関係や連携、情報共有に課題があると考える。 ・ア-3 昨年度より学年通信に学校ブログのQRコードを記載した。さらに学校ホームページやブログの内容、更新回数について検討する必要があると考える。 ○保護者の結果において、昨年度から評価の上がった項目について ・ウ-6 個々の児童生徒に応じた進路指導について十分な情報提供を行い、関係機関との連携を深めたことで一層の充実が図れたと考える。 ・オ-11 大地震や大雨、雪等不慮される自然災害を想定しPTAと連携して備蓄品の準備をする等、家庭・地域との連携・協働体制を図ることができたためと考える。									
Ⅱ 教育課程	カ 一貫教育の推進	13	小・中・中で児童生徒及び指導支援の情報を共有し、連続した指導を行う。	B	B	64.4%	B	B	71.4%
	キ 個別的教育支援計画の活用	14	児童生徒の将来像や伸ばしたい点など、一人一人の教育的ニーズに基づいて目標を設定し、地域資源を活用するなど適切な支援を実現する。	A	B	78.2%	A	A	81.2%
	ク 個別の指導計画による指導の充実	15	個別的教育支援計画を踏まえて実態に応じた具体的な目標と手立てを定め、適切な指導や評価を行う。	A	A	84.2%	A	A	88.7%
	ケ 指導方法や指導体制の工夫	16	各教科等における個別の目標に基づき、興味・関心、得意分野を生かすなど指導の手立てを工夫する。	A	A	82.2%			
		17	個別の目標や指導の手立てを共通理解し、指導者間の役割分担とチームワークで授業の充実を図る。	A	B	70.3%			
	コ ICTの効果的な活用	18	ICT機器を効果的に活用することで個々の児童生徒に応じたきめ細かな指導・支援を行い、学習活動の充実を図る。	A	B	74.3%	A	B	75.9%
	サ 体験活動	19	教科等の学習と体験活動を関連づけることで意欲を引き出し学習効果を高める。	B	B	78.2%	A	A	85.0%
		20	家庭生活や地域生活に結びついた体験活動で自立と社会参加への意欲と態度を養う。	B	B	72.3%	B	B	77.4%
シ 集団活動	21	豊かな人間関係を育むために、年齢や障害の違いを超えたより活発な集団活動を計画する。	B	B	73.3%	B	B	79.7%	
○職員自己評価において、昨年度から評価が下がった項目について ・コ-18 今年度は、「Ⅳ感染症対策」の項目から「Ⅱ教育課程」の項目とした。学習活動におけるICTの効果的な活用について、職員全体で研究、研修をする必要があると考える。 ○職員自己評価と保護者の結果に差異がある項目について ・サ-19 コロナ禍の活動制限が緩和され、十分な感染対策を行ったうえで、各種の行事や授業の中で体験活動を関連づけた学習を実施できたことが要因であると考えている。									
Ⅲ 課題教育	ス 人権教育の推進	22	児童生徒が社会で生き生きと暮らせるよう、命の大切さや思いやり、コミュニケーションの力、ルールやマナー等を育成する。	A	A	86.1%	A	A	84.2%
	セ 人権意識の向上	23	人権に配慮した指導(言葉遣いなど)やいじめ早期発見のチェックリストを定期的に実施する。いじめを許さない学校をテーマとして、人権を意識した研修に取り組む。	A	A	85.1%			
	ソ 居住地域交流及び学校間交流の推進	24	年間計画を立てて育てたい力を明確にし、児童生徒同士の充実した活動によるより一層の打ち合わせを行って実施する。	A	A	83.2%			
	タ 地域との交流	25	土曜なかよし活動(年1回)、はーとわーくす展、交流鑑賞会等の参加を地域や近隣校に呼びかけ、継続的な交流で地域への啓発を図る。(教職員) 人数制限等による「密」の回避した交流や作品を通しての交流など、感染症拡大状況に応じて工夫して地域啓発を図る。(保護者)	C	A	88.1%	A	A	85.0%
	チ 食育の推進	26	教育活動全体において食育を推進し、食への関心を高め、家庭と連携して望ましい食習慣の確立を図る。	A	A	84.2%	A	A	83.5%
	ツ 校外支援の取組	27	地域の学校や保護者のニーズを把握し、教育相談や講師派遣、就学相談、進路相談等、地域のセンター的機能の充実を図る。	A	A	95.0%			
		28	地域自立支援協議会等の関係機関と連携して講演会や進路セミナーを開催し、地域への理解啓発を推進する。	A	A	86.1%			
	○職員自己評価において、昨年度から評価の上がった項目について ・タ-25 地域との交流が、昨年度より多く実施できたことで、継続的な交流が再開できたことによる要因があると考えている。								
Ⅳ 感染症対策	健康管理	29	児童生徒の体調の変化等の観察を行い、感染症等に関する情報収集に努め、学校医、学校薬剤師等と連携しながら予防対策を徹底する。(教職員) 児童生徒の体調の変化等の観察に努めるとともに、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底する。(保護者)	A	A	93.1%	A	A	90.2%
○29 感染症についての地域の感染状況や県の通知等の情報を職員全体で共通理解し、学校医や学校薬剤師と連携しながら、消毒や換気の徹底、健康観察等を職員全体で共通実践できた。また、保護者へも感染症に関する情報を速やかに提供することで、安心して安全な教育活動が実践できた。									